

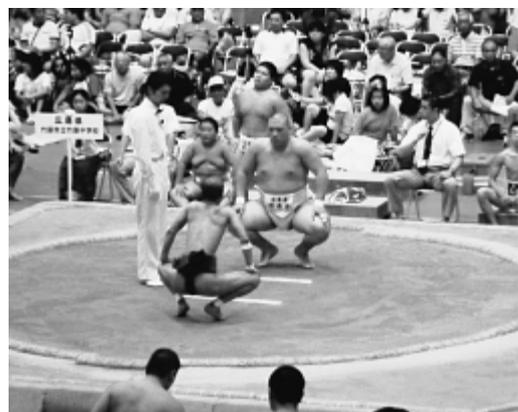
むらまつ ゆうすけ
村松 裕介 くん

生年月日：1994年6月30日（15歳）
身長：178cm 体重：127kg
学校：竹原中学校3年
得意技：突っ張り
成績（今年度）：第23回広島県中学校相撲選手権大会 個人優勝／第25回中国中学校相撲選手権大会 個人優勝
／第39回全国中学校相撲選手権大会 個人優勝



今年8月、全国中学校相撲選手権大会で頂点に立ったのは、竹原中学校3年の村松裕介くん。この輝かしい成績は、厳しい練習、病氣、敗北など、様々な苦しみを乗り越えて得られた結果です。

「努力しなければ勝てない。」
そう話す村松くんは、中学校に相撲部がないこともあり、市内にある大川道場で練習しています。村松くんを教える大澤先生は、
「才能もあるけれど、限られた時間の中で集中して練習し、指導したことを素直に吸収していけるのが彼の良いところ。本人の努力があつて、優勝できた。」と話します。



全国中学校相撲選手権大会での試合

全国には村松くんより体格の大きな選手も多く、ライバルもいます。そんなライバルたちに勝つには、試合に向けて日々練習を積み重ねなければなりません。

決勝を振り返って、村松くんはいいです。

「全国の決勝では、以前戦っていた相手ということもあって、落ち着いていた。引かない相撲をとろうと決めていた。」
そして優勝の瞬間については、
「感動しました。人間、本当にうれしい時は涙が出るものですね。」と心からの喜びを感じたことを教えてくださいました。

過去には、敗北の連続で挫折を味わったことも。また、昨年は病気で体重が20kg減るなど、苦しんだ時期もありました。

そんな時、支えてくれたのは道場の先生や先輩たち。遅れを取り戻すための長時間の練習にも、付き合ってくれたそうです。先生や先輩たちにしつかりけいこをつけてもらった時の感謝の気持ちをお忘れず、今は村松くんが小学生に教えることもあります。

「先輩たちに強くなってもらいたい。自分がやってもらったことを同じようにやるのが恩返しだと思います。」
苦しみ、喜び、感謝、達成感、様々な経験が村松くんを成長させてくれているようです。

「何秒という短い時間で白黒はつきりつく相撲が好き。」という村松くん。将来は何らかの形で相撲に関わっていくことも考えています。自分の可能性と今後進む道を見つめながら、中学最後の年を過ごします。



小坂市長に優勝報告



きれいな音が出せた時はうれしい

やまもと なつこ
山本 夏子さん

生年月日：1998年7月6日（11歳）

学校：忠海西小学校5年

好きな演奏曲：「ながれ」「よるこび」

成績（今年度）：第27回全国小・中学生箏曲コンクール小学生個人の部 金賞 ふくやまりーデンローズ賞／第19回全国小・中学生箏曲コンクール in 宇部 小学生の部 山口県知事賞 最優秀賞／第5回全国邦楽ジュニアコンクール IN KUMAMOTO 銀賞、熊本県文化協会賞

「しんどい時もあるけれど、きれいな音が出せた時はうれしい。」

そう笑顔で話すのは、今年7月、福山市で開催された全国小・中学生箏曲コンクールで見事、小学生個人の部金賞に輝いた山本夏子さん。

山本さんは、5歳の頃から箏を習っています。「左利きの娘に右手を使う機会もつくりたい」というお母さんの思いがきっかけで始めた箏ですが、今では山本さん自身がその魅力にはまっています。

「箏柱を動かすと、音が変わるんです。十三の糸を一つひとつ動かして、いろいろな音を出すのが楽しい。」



全国小・中学生箏曲コンクールでの演奏

毎日2時間、コンクール前は3〜4時間の練習を欠かさず続けています。2年前までは、指にできるマメの痛みにも耐えながらの練習に、涙を流すことも多かったそうです。しかし、箏を演奏する楽しさや、コンクールなどで練習の成果が発揮できた時の喜びが、厳しい練習を乗り越える力を与えてくれました。

「福山でのコンクールは緊張したけれど、しっかり演奏できて、念願の金賞もとれたので、とってもうれしかったです！」

と喜びを語る山本さん。2m近くある大きな箏を演奏する苦労もあるようです。

「大きな箏を運んで県外のコンクールに参加するのは大変。でも、お母さんが車に箏をのせて運んでくれます。お父さんも、いつもビデオを録ってくれるんです。」



様々なコンクールで結果を残しました

家族の協力が、箏に打ちこめる環境をつくってくれているようです。地域の福祉施設などの行事に参加して、演奏する機会もあります。美しく響く箏の音に興味をもってくれる人も多いか。また、人前で演奏させてもらうことで、度胸もつくそうです。地域の様々な人にも支えられ、がんばっています。

箏以外にも、読書や愛犬との散歩など、好きなものはたくさんあります。将来は、自分が好きなものに関わる仕事をしたいという山本さん。将来の夢を描きながら、「来年も福山のコンクールに出て賞をとる」という次の目標に向かいます。

今後の課題は、「人に聴かせる」演奏ができるよう、音をもっと追求していくこと。

一つのことには一生懸命打ち込んだ先にある喜びのために、山本さんはこれからもがんばります。